令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　３０５開進第一中学校

	課題分析	授業改善策
国語	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを適切にまとめる力に課題がある。 ・自分の意見や考えを、根拠を明らかにして表現する力に課題がある。 ・生徒一人一人の思考の過程や成果について、十分なフィードバックができていない。	・単元の最初に、初読の段階で文章を要約する活動を入れ、大まかな内容をまとめさせる。その際、読解と表現がそれぞれ正しかったかを確認させ、必要に応じて助言する。 ・単元の最後に、自分の考えをまとめる活動を入れる。その際、根拠を明確にして書くように意識させる。
社会	・諸資料を正しく読み取り、必要な情報を適切に活用することに課題が見られる。 ・多面的、多角的に考える能力を育むため、生徒が考え、議論する意見交換の場を積極的に設定していくこと。	・記述➡意見交換という流れにとらわれず、生徒が下地となる意見をいくつか出し、それらを意見交換して深められるような問いや場面を設定する。 ・その際に生成ＡＩを意見の壁打ち相手として利用するなど、ＩＣＴ機器も効果的に活用していく。
数学	・基礎的・基本的な問題の定着に課題のある生徒がいる。 ・思考・判断・表現を問うやや発展的な問題の解決に課題がある。 ・既習事項の内容を積み上げ、確認していく必要があるが、授業内で復習の時間をあまり確保することができていない。	・基礎的・基本的な計算問題の確実な定着を図り、発展的な問題にも挑戦させる必要がある。 ・基礎クラスを中心に、授業の始めに簡単な計算テストを実施したり、前時の復習をしたりして基礎学力の定着を図る。 ・家庭学習の定着を図り、毎日復習するよう指導する。
理科	・観察・実験の結果を基に考察し、探求的に学習を進めることに課題が見られる。 ・既習事項の内容を確認する時間が必要である。	・実験では、これまでの既習内容を基に、体系的な視野をもたせて予想を立てるとともに、その結果から導き出される法則を推察できる能力を育む。 ・ＩＣＴ機器を使用し、教材の提示だけでなく、ドリルなども活用して学習内容の定着を図る。
音楽	・第１学年では授業規律や基礎的・基本的な知識及び技能の定着に課題が見られる。 ・第２、３学年では自ら考え、学び合いの中から、表現力の一層の向上を図る。	・スモールステップと少人数での学習形態を取り入れ、基礎基本の充実を図る。 ・範唱、範奏を例示しながら、楽譜や曲の聴取から作曲者の意図を読み取り、話し合い活動を通して、表現力の向上を図る。
美術	・表現の基礎を固めることで、苦手意識を減らし、思考力・判断力・表現力を育成することが必要である。	・ＩＣＴを活用し、制作のイメージをもたせながら、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 ・互いに作品を鑑賞し、自らの制作を見直す時間をとる。
保健体育	・思考したことや判断したことを具体的に記述したり説明したりすることに課題が見られる。 ・体育分野では、基礎体力に課題が見られるため、主体的に楽しく体力をつけられる指導を行う。	・保健分野では、プリントやタブレットを有効的に活用し、自分の意見を整理し、相手と意見共有する時間をとる。 ・体育分野では、授業ごとの準備体操・補強運動の時間に、音楽を用いたり、ペア活動を行ったりして、運動が楽しいと思える時間を増やす。
技術・家庭	【技術】基礎的・基本的な知識及び技能の定着に課題が見られる。 【家庭】技能の習得度に差があり作業進度に差が生じるため個別に対応する必要がある。	【技術】基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 【家庭】実技実習を２～３に分割し、間に「教え合い」の授業を入れて作業進度の差を解消する。作業進度の遅い生徒にはプリントやワークは課題学習として取り組ませる。
外国語（英語）	・文法や語彙などの学習内容の定着度合いに差があり、定着に課題のある生徒がいる。 ・自分の考えや気持ちを即興で話したり書いたりする力に課題がみられる。	・家庭学習の習慣化を促したり、授業内で既習文法や語彙の反復練習をしたりすることで学習内容の定着を図る。 ・授業内で「話す活動」や「書く活動」に継続的に取り組み、反復練習を通して話したり書いたりすることについての抵抗感をなくし、定着を図る。